



太陽が顔を見せず、風も強くて薄ら寒い日で、石碑の陰に寄って北風を避けました。明日以降は夏日が続きます。シイの黄色い花が咲き、スイカズラやヤマハゼ、ノイバラなどの甘い香りが感じられ歩くにはとても良い季節になり、鳥の声にも華やぎが感じられます。



イロハモミジの芽生え

昨年飛んだ種から発芽したものです。見ると、近くに今年の実をつけたモミジがありました。



ハナニガナ

ニガナは左のように五弁花ですが、ここは10



弁花もありました。花弁が多いものを「ハナ」をつけて呼びます。



イスノキエダチャイロオオタマフシイチジクくらいの大きさで縦筋の模様がおしゃれな感じの虫瘤です。モンゼンアブラムシが産卵するときに分泌した物質が作用してできたのです。



ハラキンミズアブ
体長4ミリ。大きな複眼に金属光沢があり、左右の縁から伸びたへこみがあります。生態は不明。



外来種のアシナガグモの一種幼虫
秋、いろいろな木の枝先に産卵管で掘るようして卵を産み付けます。



ウロコアシナガグモと卵のう
体長5ミリほどの黄緑色の光沢のあるアシナガグモが産んだ卵のうを守るようにいました。よく見るとひび割れ模様がきれいです。雄には茶色い模様があります。



キマダラカメムシの卵
直径1ミリほど。上部に円形の模様があり、幼虫はここを開けて出てきます。南方系のカメムシで2センチを超える。





ダンダラチビタムシ

体長3^ミ。頭部先端にへこみがあります。ブナ科のコナラやアベマキの葉を食べます。幼虫は葉の中に潜って葉肉を食べます。



**ウツギノヒメ
ハナバチ**

上の写真には6匹が映っています。実際には地面近くを数十匹飛んでいました。体長13^ミ。地面には数^ミの穴がいくつも開いており、雄が一斉に生まれたばかりのようです。



トウヨウモンカゲロウ

大きな前翅に黒く途中が切れた筋があります。口は退化し触角は短い。頭の先に伸びているのは前肢。幼虫は水生昆虫で藻類などを食べています。カゲロウ目の化石は古生代石炭紀から発見されています。



**クビボソゴ
ミムシ**

体長20^ミ
ゴモクムシ
の一種。



コムラサキ 素早い飛び方でサクラに止まりました。近くにあった柳の葉に2本の角のある幼虫がいました。



スズキミドリトビハムシ

後脚の腿節が太く刺激するとよく跳びます。体長は3^ミと小型なので逃げるには翅を使うより有効なのでしょう。青緑色で触角の第5節まで黄褐色です。柳葉を食べます。



ギンパネチビヒメシャク

植物 セイヨウミヤコグサ、ニガナとハナニガナ、オオニワゼキショウ、ブタナ、ニホンタンポポ、ヘラオオバコ、コナスビ、ヘビイチゴ実、ハルジオン、チガヤ、アゼスゲ、カナビキソウ、アマリリス、シャクヤク、ムラサキツユクサ、アヤメ、クレマチス、スイカズラ、ノイバラ、ヤマハゼ、イボタ、ニセアカシア、スダジイ、カナメモチ、イロハモミジ芽生え、ヤマモモ実、ヤマブキ実、ミツバアケビ実、シラカシ実、
昆虫 アオスジアゲハ、コムラサキと幼虫、ヒメウラナミジャノメ、ギンパネヒメシャク、ガ幼虫(アカバキリガ、ヨツボシホソバ、ホタルガ、不明1)、ツチイナゴ、ハラヒシバッタ、ウシカメムシ、ヒシウンカの種類、ハゴロモの外来種幼虫、アワフキ巢、アブラムシ(ヒメジョン)、キマダラカメムシ卵12個、コオニヤンマ、ギンヤンマ、クビボソゴミムシ、サメハダツブノミハムシ、スズキミドリトビハムシ、ヨモギハムシ、ダンダラチビタムシ、コイチャコガネ、ナミテントウ幼虫、ヒメクロトシブミ揺籃、ウツギノヒメハナバチ雄多数、シマヒラタハバチ幼虫(サクラ)、クロヤマアリと巢、ハリブトシリアゲアリ、ウメマツオオアリ、フタホシヒラタアブ、ハラキンミズアブ、マガリケムシヒキ、オオユスリカ、ガガンボの種類、ニセアシナガキンバエ、ホオグロオビキンバエ、アリ地獄1、トウヨウモンカゲロウ、アオヒゲナガトビケラ、
蜘蛛 ジョロウグモ同居、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ雌雄と卵のう、サツノミダマシ幼体、コガネグモ類幼体、不明の卵のう固まって4コ、
鳥 ヒバリ、ツバメ、シジュウカラ声、ウグイス声、コジュケイ2、カワウ、アオサギ、
その他 カナヘビ、アマガエル、虫瘤(イスノキハタマフシ、イスノキエダチャイロオオタマフシ(モンゼンイスアブラムシ)、サクラハチヂムシ)

次回:6月13日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円 ※7/11は、18(木)に変更します